

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室
大項目	6 教育内容・方法・成果（研究科）《全学的な視点》	
中項目	6.3 教育方法	
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。	
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）	
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。	
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性	
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。	
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性	
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。	
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 各教員が研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導を行う。	→指導要領の作成	C
2. 授業評価等を実施することによって授業改善への取り組みを推進する。	→学生による授業評価アンケートの回収率、大学院FD部会の開催	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

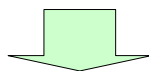
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.3.1	(方針) 専門性のある教育研究を展開する大学院では、教育内容、方法、成果の統一的な指標をもちにくいのが現実であるが、中央教育審議会においても議論されているとおり、今後は大学院教育についても世界水準を意識した教育方法やその指導、授業の計画性、厳格な成績評価と単位認定は世界の中で本学大学院が認められていくには必須のこととなる。そのため、まずはFD活動を主要な指標として、効果的な教育体制を確立していく。 (現状説明) 教育方法及び学習指導については、各研究科の独自性による部分が大きく、全学的に履修登録上限の設定や指導要領の作成には至っていない。ただし、それぞれの研究科においては将来構想の部会や研究科内部に部会を設けて、効率的な授業形態、学生主体の授業方法や学生指導などを検討している。
☆ 小項目6.3.2	(現状説明) 研究科においてそれぞれシラバスを作成し、計画的に授業を展開している。授業内容・方法とシラバスとの整合性についても、各研究科においてそれぞれ意識して作成されている。
☆ 小項目6.3.3	(現状説明) 各研究科において、これまでの成績評価と単位認定の実績に基づいて適切に単位認定は行われている。
☆ 小項目6.3.4	(現状説明) 大学院FD部会を設置したが、授業評価アンケートの集計だけにとどまっており、まだ開催には至っていない。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



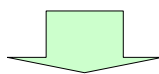
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	大学院FD部会を開催し、全学的な取り組みをスタートさせる。
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	授業評価アンケートの集計を行って大学院FD部会を開催し、今後の大学院全体のFD活動について検討を始める。
小項目6.3.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○大学院FD部会の開催とともに、博士論文の作成指導・学位授与も今後重点的に努力が望まれるところです。

【学内委員】

○【次年度に向けた方策(2)】改善方策の記入欄が誤っていると思われます。

○小項目6.3.1における(方針)は、(現状説明)として記述してください。

○小項目6.3.1については、「要素」の「研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導」「実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導」の説明が必要かと思えます。掲げられた目標1にも触れながら説明をお願いします。

○大学院のシラバスについては十分とは言えません。少人数授業が多いため学部のようにはいかないでしょうが、改善は必要です。2006年度の認証評価において助言を附されている研究科もあります。関西学院大学大学院として何らかの対策が必要でしょう。

○大学院のFD活動については、2006年度の認証評価において助言が附されています。大学院FD部会の早期開催と各種施策の実行が待たれます。

○小項目6.3.1における現状説明で、課題がかかげられているのであれば、改善すべき事項に記述をお願いします。

○大学基準協会の「評価に際し留意すべき事項」(ハンドブックP78~)に留意してください。ここで示されていることについて現状説明していくことも基準の自己チェックにもなり有効です。基準に達していない場合は、必ず記述してください。

○2009年度に設定された目標は適切であるといえます。それらの達成のための体制の構築が望まれます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.3.0.S1	大学院生の論文件数(査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
6.3.0.S2	履修者数規模別の授業科目数(少人数・中人数・大人数)
6.3.0.S3	少人数授業の授業形態の調査
6.3.0.S4	規模別講義室・演習室使用状況
6.3.0.S5	マルチメディア教室の稼働率
6.3.0.S6	遠隔授業を活用した授業の比率
6.3.0.S7	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.3.0.S8	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.3.0.S9	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.3.0.S10	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.3.0.S11	各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況
6.3.0.S12	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.3.0.S13	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.3.0.S14	履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
6.3.0.S15	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S16	オープン授業(授業公開)の全授業における割合
6.3.0.S17	学生の授業評価の実施率(全学、学部別)
6.3.0.S18	学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S19	在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
6.3.0.S20	在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
6.3.0.S21	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(キリスト教関連科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S22	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(語学)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S23	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(一般教養的な授業)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S24	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(専門科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S25	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(ゼミ)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率

<個別的な指標>
